

第5学年・あすなろ学級 総合的な学習の時間指導案

平成27年1月16日（金）第6校時

安田町立安田小学校

第5学年（男子12名、女子5名、計17名）

場所 体育館

授業者 谷岡 道雄 （5年）

安養寺 淑江 （あすなろ学級）

1 単元名

「安田町防災メッセンジャー」

2 単元設定の理由

（1）児童観

本学級の児童は、地震による災害について耳にすることや東北で起こった震災のニュースなどを見ることで悲惨な現状や大変さを目の当たりにしている。また学校や地域などで避難訓練なども行われていることから、防災への関心は高い。しかし、防災学習アンケートにおいて、「学校や自宅にいるときに地震が起きた場合、避難する安全な場所を知らない」と答えた児童は7名、「一人で登下校しているときに安全な場所に避難できない」と答えた児童は9名と、安全に避難する方法を十分身につけることはできていない。安田町において地震が起こった場合、建物の倒壊や津波や土砂崩れが起こることも十分予想される。海沿いの町で高齢者も多い地域なので、地震が起きるまでにどんなことができるか、起きた時にどこに避難すればいいか考えさせたい。

また、児童は、学習の中であれこれ発言することは好きである。しかし、自分たちで考え探求すること、班やペアでシェアリングをすることについては苦手意識を持っている。だからこそ、主体的に考える場面や活動を入れることで、教師や大人がいない場面で災害に遭遇しても困ることなく、自分で判断して自分の命を守っていく児童に育ててほしい。

（2）単元観

本校は南を土佐湾、北は四国山地に連なる山々に囲まれ、そばを清流安田川が流れている。海が近いことで、南海トラフ地震が起きたときには甚大な被害が起こることが予想されているにもかかわらず、「南海トラフ地震は、将来起こるけれど、まだ大丈夫だろう」という意識を持っている児童もいる。総合的な学習の時間に、本単元「安田町防災メッセンジャー」を設定し、過去の地震や対策について学ぶとともに、いずれ起こりうる南海トラフ地震に備える学習をすることで正しい知識を得、積極的に発信していこうとする態度を育てたい。

そのためには、地震が起きたときにどこが危険なのか、どこが安全なのかについて知る必要がある。児童自身から「マップがあると便利だ」ということを考え出させるとともに、地域にあった防災マップを作成させたい。その際には、岡村特任教授や地域の方々と一緒にフィールドワークをして専門的な知見をいただきながら、校区の安全対策や危険箇所等を観察調査したい。最終的には、この学習で作成したマップを活用して安全行動の大切さを発信する価値意識で「全校児童・保護者・役場の方の前でポスターセッションすること」や「地域へ出向いて地区の方に説明すること」で「自分たちは安田町の防災をみんなに知らせるんだ」という防災メッセンジャーとしての使命感を高め、「情報発信の担い手だ」という責任感を持たせたい。

(3) 指導観

「自らの課題を持って学習を進める」ことができるよう、まず、ウェビング手法を用い、児童一人一人の防災知識や課題を明らかにさせたい。次に、大震災の際に要求される協同的な行動の獲得のためにも、グループで課題や手段を整理し、理由付けをするなどの練り合う共同的な学びの場をできるだけ設定したい。そして、自宅でも登下校中であっても、全員が安全に避難することを目指した「防災安全マップ」作成を通し課題解決能力を向上させながら、仲間や家族、地域を思う気持ちを高め、学んだことが安田町の防災に貢献しようという充実感を味わわせたい。

本時の指導では、「防災のためにぜひとも伝えたいことを効果的に伝える」ことを目標にしている。そのため、前段の学習で、相手と目的を意識した効果的な伝え方になっているかどうか、グループ同士で意見交流する場を設けたい。本時の学習では、聞き手とやり取りする場を設定し、相手や目的に応じて確かに伝えることができたか振り返らせたい。発表では自分たちの思いや願いが聞き手にどのように伝わったかをつかみ、今後も防災に取り組もうとする姿勢を支援したい。

3 単元目標

- 安田町の人々の命を助ける有効な防災安全マップを作り、発表することを通して、これからの防災力（意識、実践力）を高める。
- 問題解決や探究活動に主体的、協働的に取り組むことを通し、集団づくりをする。

4 単元の評価規準

課題解決能力	コミュニケーション能力	自己の生き方
<ul style="list-style-type: none"> ・課題解決に向けて目的を持って情報を収集している。 ・情報を整理し分析して思考を深め、広げている。 ・相手や目的に応じて表現方法を考え効果的に表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目的意識を持ち、相手や状況に応じてわかりやすく話している。 ・相手の話の意図を捉え、共通点や相違点を考えながら聞こうとしている。 ・多様な考えを受け入れながら話し合い、考えを深めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・わかったことや考えたことについて根拠を明らかにしながら、自分の考えを書いている。 ・調べてわかったことから、地域の人々の思いを受け止め自分にできることを考えている。

5 指導計画（全28時間 本時26/28）

次 (時数)	学習内容	評価				
		課	コ	自	評価規準	評価方法
I-1 (6) 課題の 設定	<ul style="list-style-type: none"> ○地震や津波についてこれまで学んだことをふり返ろう ○南海トラフ地震について学ぼう ○自分たちにできることを考えよう（防災マップ作り） 	○			<ul style="list-style-type: none"> ・今まで学んだことをふり返り自分の防災意識を自覚し課題を考えようとしている。 ・高齢者や幼い子にも役立つ防災マップの視点を考えることができている。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート (ウェビング) 発言 ふり返りシート 行動観察

I-2 (3) 情報の 収集 整理 分析	○夏休みを利用してマイ防災 マップを作ってみよう（一人 または小人数で、狭い範囲 で） ・学校周辺のフィールドワーク ・マップ作成上の留意点確認	○			・目的にあったマップ作成の ために必要な情報を進んで 収集できている。	発言 行動観察 ふり返しシート
I-3 (3) まとめ 表現	○マイ防災マップの発表を通 し、マップ作りに必要な内容 や表現方法を友達から学ぼ う	○			・伝える相手を意識した工夫 を友だちの防災マップから 積極的に見つけ、発表者に 伝えることができている。	ワークシート 発言
II-1 (2) 課題の 設定	○役立つ防災マップとして十 分だろうか ・学んだことを整理する ・岡村先生に依頼の手紙を書く	○			・地域に発信する防災マップ として欠けている点は何か 考え、学ぼうとしている。	岡村先生へ の手紙
II-2 (4) 情報の 収集 整理 分析	○高知大の岡村先生にフィー ルドワークの仕方を学ぼう ○高知大学の学生にマップ作 りのポイントを学ぼう	○ ○	○		・フィールドワーク中に持っ た疑問について積極的に質 問することができる。 ・フィールドワークで学んだ ことを伝える防災標語を作 ることができる。 ・目的にあったマップ作成の ために必要な情報を進んで 収集している。	発言 行動観察 防災標語 発言 行動観察
II-3 (8) まとめ 表現	○学んだことを生かし、地域の 人に役立つマップを作り、発 信しよう（本時）8/8 ・マップ作り ・マップ発信	○	○		・さまざまな立場にたって避 難時間を実測するなど積極 的に防災マップ作りを行う ことができている。 ・グループで話し合い、より 有効な発信方法を考えるこ とができている。 【コミュニケーション能力】	行動観察 作成資料 発言 行動観察 ワークシート
III (2) ふり返し	○取り組みの成果と課題、自分 の防災力がどのように向上 したのか、学習のふり返しを する			○	・これまでの学習をふり返し、 防災力の向上を自覚するこ とができる。	ファイル ワークシート

6 本時について

(1) ねらい

○聞き手に応じて、安全行動のポイントを伝えることができる。

○聞き手の思いを受け止め、次の課題を見つけることができる。

(2) 学習の展開 (26 / 30 時間)

学習活動	指導上の留意事項	評価規準	評価方法
1. 全校の前で5年生がどんなことに取り組んできたのか発表する。(3分)	・南海トラフ地震について、全校児童に5年生としてどんなことを考え、取り組んできたのかを伝えさせる。		
2. 発表のルールについて説明する。(1分)	・1グループ10分で質問、意見2分。答えられない場合には用紙に記入してもらうようにする。		
防災安全マップを通して、安全行動のポイントを伝えよう。			
3. 調べてきたグループに分かれてグループごとに発表する(36分) 10分×3 質問 2分×3	<ul style="list-style-type: none"> ・地震が起こったときに避難場所、危ないと思う箇所、避難経路、避難行動のとり方について具体的に説明させる。 ・地形の特徴、津波対応の違いにより伝えたいこと、伝えたい方法が異なるため、ポスターセッションという形で発表させる。 ・各グループごとに、内容に合わせて適宜質問タイムを取らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・命を守るために必要なことを聞き手一人一人に伝えている。 【コミュニケーション能力】 	発表 行動観察
4. 自分の命を守るために必要だと思うことをステージで発表する。(5分)	<ul style="list-style-type: none"> ・南海トラフ地震から命を守るために必要なことを簡潔に印象的に伝えさせる。 ・聞き手から感想や意見をもらえるよう、アンケート用紙を準備させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・聞き手の質問や意見から気づいた今後の課題を聞き手にもう一度伝えて確認することができる。 【コミュニケーション能力】 	

(3) 準備物

各地区の防災安全マップ アンケート用紙
各グループが用意したもの ふり返し用紙